

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：17501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02856

研究課題名(和文)日本語学習者のためのプレゼンテーション支援e-ラーニング教材の開発と実践研究

研究課題名(英文)Enhancing Presentation Skills: Development and Practical Study of E-Learning Materials for Japanese Language Learners

研究代表者

坂井 美恵子(Sakai, Mieko)

大分大学・教育マネジメント機構・教授

研究者番号：60288868

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：日本語学習者、特に漢字圏の学習者がスピーチやプレゼンテーション(以下プレゼン)を行う際に、「(動物が)多い」ではなく「豊富だ」のように漢語を多く使用する傾向がある。本研究では主に中級レベルを対象に、書き言葉からプレゼンにふさわしい話し言葉への言い換え練習ができるe-learning教材を開発した。まずはプレゼンコーパスを収集、分析し、聞き手にとってわかりにくい、もしくは不適切と感じられる言葉を抽出した。出題形式は、出題文中の書き言葉を話し言葉で言い換える練習とし、正解をひらがなで入力する。学習者は、あまり意識していなかった言葉の選択に注意を向けることができたと概ね好評である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本語学習者はプレゼンにおいて漢語など書き言葉を多用する傾向がある。プレゼンにふさわしい話し言葉への言い換え練習ができるe-learning教材を開発し、学習者が広く使えるようにしたことは、日本語教育界にとって大変意義のあることである。限られた授業時間の中で多彩なトピックに応じた言葉を指導することは困難であり、個々の学習者の努力に頼らざるを得ない。従って、内容語も含めたプレゼンにふさわしい語の習得については、まさにe-learning教材で個別学習ができる環境を整えることが重要である。また本教材は表現の多様性を身につけるといっても、中級から上級レベルの学習者にとって意義のある練習となる。

研究成果の概要(英文)：When it comes to Japanese learners, particularly those from countries where Kanji is used, delivering speeches or presentations often leads to the excessive use of Chinese words. For instance, they might say "(Doobutsu ga)hoofu da" instead of using a more suitable phrase like "ooi." With this in mind, our study focused on creating an e-learning resource tailored for intermediate level learners. The aim was to help them practice paraphrasing written text into spoken words that are appropriate for presentations. To achieve this, we collected and analyzed a corpus of presentations, identifying words that proved challenging or unsuitable for the audience's comprehension. The practice questions in our material required learners to paraphrase the written words using spoken language, and the correct answers were entered in hiragana. The results were largely positive, as learners became more conscious of word choice, an aspect they had previously overlooked.

研究分野：日本語教育

キーワード：e-learningシステム 和語と漢語 言い換え プレゼンテーション 書き言葉 話し言葉

## 1. 研究開始当初の背景

日本語学習者、特に漢字圏の学習者がスピーチやプレゼンテーション（以下プレゼン）を行う際に、「(動物が) 多い」や「(制限を) なくす」の代わりに、「豊富だ」、「撤廃する」といった漢語を多く使用する傾向があることが指摘されている（湯浅 2014）。また、漢字圏以外の学習者の場合も、書き言葉と話し言葉の区別が付かず、辞書に載っている単語をそのまま使ってしまうことも多い。特に中級レベルのクラスでは、発表に用いるのに不適切な表現を使っていることに学習者自身も気が付いていないこともある。さらに学習者間で語彙の習得に差がある場合、発表者と聞き手のコミュニケーションを成立させるためには、聞き手に配慮したプレゼンにふさわしい語の選択が必要不可欠である。

近年アクティブラーニングが重視される中、プレゼンの指導は日本語教育においても重要な分野である。『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』（2019）、『協働学習で学ぶスピーチ』（2018）、『日本語で挑戦！スピーチ&ディディスカッション』（2012）など、発表やスピーチの仕方を扱っている教材も近年増えている。ただし、これらの教材では発表の構成や発表時に使える定型表現などは扱っているが、内容に関連した語彙の提示は限られている。また、『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』（2014）など、書き言葉と話し言葉の違いについて触れている教材も多くあるが、中級レベルのプレゼンに特化して内容に関連した適切な表現を練習させているものはあまりないと言えよう。確かに、限られた授業時間の中で、多彩なトピックに応じた言葉を指導することは困難であり、個々の学習者の努力に頼らざるを得ない。従って、こうした語彙や表現を習得させるためにはまさに e-learning 教材で個別学習ができる環境を整えることが重要である。そのため、主に中級レベルを対象に、内容語も含めたプレゼンにふさわしい語への言い換え練習ができる e-learning 教材を開発することにした。

## 2. 研究の目的

プレゼン支援教材としてプレゼンに使える話し言葉の習得と定着を図る e-learning システムを構築する。プレゼンコーパスの収集と分析を行い、書き言葉とプレゼン用の言葉やインフォーマルな話し言葉との言い換え練習ができるよう、プレゼン用語彙データベースを作成する。そして、そのデータベースを元に言い換えの練習問題を作り、自律学習を促す機能を付加した e-learning システムを構築する。さらにシステムの試行を行い、有効性を検証する。完成後は国内外の学習者や教育機関に広く公開する。また、学習者が困難とする言い換えの特徴を探る。

## 3. 研究の方法

教材開発のための基礎データとして、中級前半から後半レベルのクラスの実際のプレゼンの音声データを収集し、一人 3~10 分のプレゼン、約 100 人分の発話データを文字起こしし、プレゼンコーパスを作成した。プレゼンのトピックは「日本で見付けた珍しい物」、「私の育った町」、「30 年後の私の国の問題」、「おいしい料理の作り方」、「意見表明（子供のスマホ所持、寮の門限について）」などである。

細川（1993）は誤用の種類として、語の選択や助詞、動詞の活用などの語レベルの誤用、テンス、アスペクト、使役、受け身など文レベルの誤用、指示詞、接続、文体など談話レベルの誤用の三種類に分類しているが、本研究では語レベルの誤用、中でも語の選択にあたるものを抽出した。言い換えの練習問題を作成するにあたって定めた基本方針は以下のとおりである。①中級レベルでは研究発表等のアカデミックな内容の口頭発表でふさわしいとされる「丁寧な話し言葉」（犬飼 2007）を使う必要はないと考え、練習の対象としない、②「すごい、いっぱい、ちょっ

と、こんな」などのくだけた話し言葉は適切な表現に変える練習をする、③中級レベルの学習者には難しすぎるものや、音声情報だけでは意味が伝わりにくいものは不適切な表現と考え、適切な表現への言い換え練習をする。

言い換え練習の具体的な問題については、三名の日本語教員がプレゼンコーパスを分析し、聞き手にとってわかりにくい、もしくは不適切と感じられる表現を抽出して作成した。抽出した表現を分類すると、漢語名詞、漢語動詞、名詞・動詞以外の漢語の使用、主に文書で使われる（動詞以外の）書き言葉の使用、俗語の使用に分けられる。それぞれの例と提案する言い換え表現を表1に示し、本教材で提案する話し言葉への言い換え表現をカッコ内に示す。わかりにくい、もしくは不適切と判断された表現は、多くの場合、話し言葉である和語ではなく書き言葉である漢語の使用であった。

作成したコーパスから抽出し採用した100語以外に、『実践日本語教育スタンダード』（2013）（以下『実践』）からも漢語動詞を採用した。『実践』には日本語教育の現場で使われる語彙が網羅され、話題別に分類されていることと、語のレベルがA（やさしい）、B（使えた方がいい）、C（やや専門的）の三レベルに分けられていることから、本教材で扱うにふさわしいと判断し、BとCレベルと判定された漢語動詞の中から、和語で言い換えることが可能なものを延べ約400語採用した。合計約500語を趣味や健康など11のジャンルに分けて出題することにした。

表1 不適切な表現の分類と例（言い換え表現）

1	漢語名詞	<u>大病</u> がある（ひどい病気） <u>火災</u> が起こる（火事）
2	漢語動詞	結婚式に <u>着用</u> する（着る） 財産を <u>紛失</u> する（失くす） 記憶力を <u>増進</u> する（増す）
3	名詞・動詞以外の漢語	春は <u>温和</u> な気候だ（暖かい） 納豆は体に <u>有益</u> だ（いい） <u>明確</u> な違いがある（はっきりとした）
4	主に文書で使われる漢語以外の書き言葉	普通と <u>異なる</u> 格好（違う） <u>便利</u> さをもたらした（になった）
5	俗語	<u>やばい</u> 地震が起こる（危険な）

#### 4. 研究成果

e-learning 教材の出題形式は出題文中の下線部の言葉を別の言葉で言い換える練習とし、正解をひらがなカタカナで入力する形式とした。以下、表2に動詞の言い換えの出題例を示す。

学習者はまず、ホーム画面から学習したいジャンルを選択してから学習を始める（図1）。そのジャンルに登録された文の中から一問ずつランダムに出題される（図2）。解答欄にはヒントとして、ひらがなの文字数と正解の中の一字が表示される。解答を入力すると、正誤の判定が出て（図3）、誤答の場合は正答が表示される。出題は10問ずつとし、10問終わるごとに点数と学習結果が表示される（図4）。誤答したものは正解するまで出題され、すべての問題に正解したらそのジャンルはクリアとなる。クリアしたジャンルはリセットされ、再度解答することができる。学習の途中で他のジャンルを学習することもできる。ホーム画面には各ジャンルの獲得点数及び、残りの問題数が表示される。本教材はスマートフォン及びパソコンでの操作を可能としている。

以上の学習者用の画面のほかに、管理者用の画面も用意し、各設問の正答率や学習者毎の学習履歴や解答時間を取得することができるほか、問題文の追加や修正を行うことができる。

表2 出題例（動詞の言い換え）

ジャンル	出題文	正解
日常生活	料理が <u>完成する</u> ビタミンを <u>摂取する</u> ビールを <u>冷蔵する</u> 保険に <u>加入する</u>	できあがる とる ひやす はいる
趣味	試合を <u>観戦する</u> 敵に <u>勝利する</u> 春になると花が <u>開花する</u> 花の種類を <u>識別する</u>	みる かつ ひらく みわける



図1 ホーム画面



図2 出題画面



図3 出題画面（正解）



図4 学習結果表示画面

日本語学習者 60 名が試行をした結果、動詞の書き換えでは正答率の高い上位 10 語と低い 10 語は表 3 に示すとおりとなった。

表 3 正答率順結果（動詞の言い換え）

高い語（正解）	正答率	低い語（正解）	正答率
記入する（かく）	100.0	統治する（おさめる）	36.1
推進する（すすめる）	100.0	停滞する（とどこおる）	36.3
販売する（うる）	96.8	要求する（ねだる）	38.7
製造する（つくる）	96.6	破棄する（とりけす）	38.7
選定する（えらぶ）	96.6	流通する（うられる）	38.9
撰取する（とる）	96.5	脅迫する（おどす）	39.2
保護する（まもる）	96.1	寄与する（こうけんする）	39.5
提出する（だす）	96.0	冷凍する（こおらす）	40.3
救助する（たすける）	95.8	開催する（もよおす）	41.3
制作する（つくる）	95.6	補給する（おぎなう）	41.9

正答率の高い動詞は、既に意味を知っていて正解を導くことができる語であることが推測でき、正解の言い換え語も初級で学習する語が多い。一方、正答率の低い語は、出題した語も正解となる言い換え語も、意味が分からない、あるいは漢字を見ても意味が推測できない語であるため正答率が低くなったと思われる。正答率の高い語の多くは、出題した漢語のどちらかの漢字を訓読みで言い換えれば正解となる。このような言い換えの方法を知っていれば、正解を導き出すことができる。これに対して、正答率の低い語の中にはこの方法が通用しない語も見受けられる。正答率の高い語は耳にする機会も多く意味をつかみやすいかもしれないが、正答率の低い漢語は耳で聞くだけでは意味が推測できないであろうことから、プレゼンをする際に言い換えをより推奨したほうが良いと考える。

今後はさらに多くの学習者に使用してもらい、漢字圏と非漢字圏など学習者の特性別に結果の比較を行い、プレゼン指導に活かしていきたい。

## 参考文献

- 犬飼康弘（2007）『アカデミック・スキルを身につける聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
- 鎌田美千子・仁科浩美（2014）『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク
- 黒崎典子・石塚久与・高橋純子・二瓶知子・細川美紀（2012）『中級日本語で挑戦！スピーチ&ディスカッション』凡人社
- 渋谷実希・勝又恵理子・古谷智子・前川志津・森幸穂（2018）『協働学習で学ぶスピーチ』凡人社
- 銅直信子・坂東実子『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳改訂版』（2019）国書刊行会
- 細川英雄（1993）『留学生日本語作文における書く関係表示の誤用について』『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』5、早稲田大学：70-89
- 山内博編著（2013）『実践日本語教育スタンダード』ひつじ書房
- 湯浅千映子（2014）『やさしい日本語』に見る言い換え操作『国際経営論集』、48、pp. 145-155

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 坂井美恵子・金森由美・中溝朋子	4. 巻 -
2. 論文標題 中級用言い換え練習教材の開発 話し言葉を使ったわかりやすいプレゼンのために	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本語教育学会2019年度 第5回支部集会予稿集	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件／うち国際学会 1件）

1. 発表者名 坂井美恵子・金森由美・中溝朋子・大岩幸太郎
2. 発表標題 書き言葉と話し言葉の言い換え練習サイト「いいカエル」
3. 学会等名 日本語教育学会2020 年度第 7 回支部集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂井美恵子・金森由美・中溝朋子
2. 発表標題 中級用言い換え練習教材の開発 話し言葉を使ったわかりやすいプレゼンのために
3. 学会等名 日本語教育学会2019年度 第5回支部集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坂井美恵子・中溝朋子・金森由美・大岩幸太郎
2. 発表標題 Developing an E-Learning System for Clear Presentation - Suggestions of Paraphrasing Using Easy-to-Understand Words for Listeners -
3. 学会等名 Venezia 2018 International Conference on Japanese Language Education (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

いいカエルー書き言葉と話し言葉の言い換え練習サイト（学習者用）  
<https://iikaeru.susi.oita-u.ac.jp/iikaeru/>

いいカエル（管理画面）  
<https://iikaeru.susi.oita-u.ac.jp/iikaeru/admin/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金森 由美 (Kanamori Yumi) (80264323)	大分大学・国際教育研究推進機構・講師  (17501)	
研究分担者	大岩 幸太郎 (Ooiwa Koutarou) (90223726)	大分大学・教育学部・名誉教授  (17501)	
研究分担者	中溝 朋子 (Nakamizo Tomoko) (70305217)	山口大学・大学教育機構・教授  (15501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------